

授業改善推進プラン

教科名	数 学	担当教員	飯田到 ・ 藤田行人 ・ 熊谷真由美
-----	-----	------	--------------------

1 昨年度の授業改善の成果と課題

【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業を利用した補充教育の実践を行う。 ・段階的なプリントを利用して力を付ける。
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できていない部分の定着を図る指導を行う。

2 今年度の本校生徒の学習指導上の課題

1年	<p>1 基礎的・基本的内容の定着に関して 小数や分数、四則計算など基本的な計算はある程度は定着している。数学に苦手意識をもち、基礎計算にも不安を感じている生徒がいるので、計算力を高める演習を増やす必要がある。課題プリントを与え、提出させ、確認することにより、家庭学習が少しずつ定着し、基礎的・基本的内容が定着してきた。</p> <p>2 主体的な学習態度・学ぶ意欲などに関して 授業に対する姿勢は良いが、受け身な生徒もいる。発問に対し積極的に考え、発言できる姿勢を身に付けさせたい。</p>
2年	<p>1 基礎的・基本的内容の定着について 授業で取り扱った内容について、課題プリントを与えている。また、自力でこなせない生徒についてはその授業の中で個人的に指導する。これを繰り返すことにより、新しい学習内容を間違っ理解する生徒は減り、基礎的・基本的内容は定着してきたように思える。基礎計算の部分で同じ間違いを繰り返しているため、同じ系統の問題を繰り返し解かせていく時間をとる必要性を感じる。</p> <p>2 主体的な学習態度・学ぶ意欲に関して スパイラルを意識して練習させることで、理解が深まり発展的内容についても積極的に取り組める生徒が増えてきた。なかには復習問題の練習を嫌がる生徒がおり、そのような生徒については復習することの大切さを感じさせ、自主的に取り組む姿勢を身に付けさせたい。</p>
3年	<p>1 基礎的・基本的内容の定着に関して 練習プリントを与え、家庭学習をさせ、提出・確認することにより、家庭学習が少しずつ定着し、基礎的・基本的内容が定着してきた。数学を苦手と感じている生徒がいるので、そのような生徒の苦手意識の改善、学習意欲の向上が課題である。基本的な計算や方程式の解法については、多くの生徒が定着していると考えられる。文章問題に関しては、立式ができないなどの課題があり、繰り返し解かせていく指導が必要である。</p> <p>2 主体的な学習態度・学ぶ意欲に関して わからない問題を自分で解決しようとする生徒が増えてきたが、間違いに気付かずに先に進んでしまい、結果的に誤答をしてしまう生徒がいるので、その都度注意が必要である。また、発展的な内容に関する取組を苦手としているので、問題を数多く解き、苦手意識を取り除くこと、じっくり考える力を付けることが課題である。</p>

3 今後授業を行っていく上での「指導方法の課題分析」と「具体的な授業改善案」

	指導方法の課題	具体的な授業改善案
1年	○前向きに授業に取り組んでいるが、理解できないまま先に進んでしまう生徒がいるので、一人一人の学習の定着を把握しながら授業を進める必要がある。	◎全員が答える授業を展開する。学力向上支援講師と連携しながら、生徒の学習状況を把握するとともに、個別対応の必要な生徒に対して、個々に質問に応じていく。 ◎個々の生徒がどの時点で、どの部分がつまずいているかを把握・理解しながら授業を進める。考えさせる時間を多く設ける。
2年	○復習することで、新しい内容もより深く理解できることを生徒に知らせ、自主的に練習できるようにする。 ○基本的な計算練習で、同じ間違いを繰り返す生徒について、課題を与え確認する。 ○発展的な内容にも積極的に取り組み、理解できたときの喜びを感じられるような授業を行う。	◎長期休業中の補充教室で、「段階的なプリント」を活用し、生徒が自ら間違いに気付き、解決する習慣を身に付けさせる。 ◎授業を進める際に、必ず前回の内容を復習し、忘れていたり、理解できていなかったりした生徒について、その時間内に個人的に指導できるように努める。 ◎授業時に与える練習プリントに復習問題も加え、確認・評価する。 ◎発展的な内容については分かりやすい例題から取り上げ、同じパターンの問題を練習して自分で解けるようになってから次の段階に進む、というように生徒が余裕をもって取り組めるように配慮する。
3年	○同じ間違いを繰り返す生徒について、課題を与え定着度を確認する。 ○基本的な計算方法は理解していてもミスが多い。より計算力を高める練習が必要である。 ○新しい学習内容を間違っ理解した生徒がいないか、毎時間の授業の中で確認する。 ○応用問題に関して、取り組まずに投げ出す生徒がいる。	◎長期休業中の補充教室で「段階的なプリント」を活用し、個々の生徒がつまずいている部分の解決に努める。 ◎内容を進める時には、個々の生徒がどの時点・部分でつまずいているのか把握・理解して授業を進める。そのために、細かな部分で質問をしたり、練習プリントや小テストをしたりして、定着状況を常に確認していく。 ◎練習プリントを配布・確認をして、間違っ理解のまま進むことがないように注意する。 ◎生徒の一人一人の習熟度を把握し、分からないところをそのままにしないよう個々に声かけをする。長期休業中には、補習も実施する。

4. その他(補充的内容及び発展的内容に関する指導について、コンピュータの活用など)

- 長期休業等を利用し、補充教室を実施する。宿題プリントで発展的内容を扱う。
- 数学勉強会で学力の補充を図る。
- ICT 機器を有効活用し、視覚的な理解を深める。
- 習熟度別少人数授業を活用し演習を多く行う。また、学力向上支援講師と連携し基礎の定着させる。